

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル) 申請様式

① 学校名	学校法人 都築育英学園 日本経済大学		
② 大学等の設置者	都築 明寿香	③ 設置形態	私立大学
④ 所在地	福岡県太宰府市五条3丁目11-25		
⑤ 申請するプログラム名称	数理・データサイエンス・AI リテラシープログラム		
⑥ プログラムの開設年度	2020	年度	⑦ 応用基礎レベルの申請の有無
			無
⑧ 教員数	(常勤)	144	人
	(非常勤)	116	人
⑨ プログラムの授業を教えている教員数		5	人
⑩ 全学部・学科の入学定員	1,410	人	
⑪ 全学部・学科の学生数(学年別)		総数	5,343
	1年次	1,729	人
	2年次	1,393	人
	3年次	1,129	人
	4年次	1,054	人
	5年次		人
	6年次		人
⑫ プログラムの運営責任者	(責任者名)	田代 雄三	(役職名)
			業務推進部長
⑬ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)	教務委員会		
	(責任者名)	山口 勝士	(役職名)
			教務部長
⑭ プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)	自己点検評価委員会		
	(責任者名)	光井 信介	(役職名)
			経済学部長
⑮ 申請する認定プログラム	認定教育プログラム		

連絡先

所属部署名	業務推進部	担当者名	田代雄三
E-mail	yuzo.tashiro@fk.jue.ac.jp	電話番号	080-1750-0178

プログラムを構成する授業科目について

①具体的な修了要件

②教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

全学に開講している『数字でよみとくビジネス』を修了することで当教育プログラムを修了したものとする。

③現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6
数字でよみとくビジネス	2	○	全学開講	○	○						

④「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3
数字でよみとくビジネス	2	○	全学開講	○	○						

⑤「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5
数字でよみとくビジネス	2	○	全学開講	○	○						

⑥「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2	授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2
数字でよみとくビジネス	2	○	全学開講	○	○						

⑦「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3
数字でよみとくビジネス	2	○	全学開講	○	○	○							

⑧選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑨プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	数字でよみとくビジネス:: 社会の情報化、情報技術の進展・役割の変化を知り、数理・データサイエンス・AI等を学ぶことの意義を理解する(第1回・第2回)
	1-6	数字でよみとくビジネス:: 情報技術の歴史的背景をたどりながら、第4次産業革命、Society5.0の最新動向を知る(第2回・第3回)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	数字でよみとくビジネス: ビジネスにおけるデータを例示しながら、どのようなデータが集められ、どう活用されているかを知る(第4回)
	1-3	数字でよみとくビジネス: ビジネスにおける様々な領域のデータを取り上げながら、数理・データサイエンスの手法がどのように活用されているかを知る(第5回)

(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	数字でよみとくビジネス: データ・AIを活用するために使われている技術の概要を知る(第6回)
	1-5	数字でよみとくビジネス: データ・AIを活用した事例を学び、どのような価値が生まれているかを知る(第6回)
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	数字でよみとくビジネス: 情報技術に関わる知的財産・法規について知る(第15回)
	3-2	数字でよみとくビジネス: ビジネスの実例を通して、データを守る上で知っておくべき情報セキュリティについて知る(第15回)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	数字でよみとくビジネス: ビジネスにおける身近なデータを活用しながら、平均、分散、標準偏差、共分散、相関係数などの分析技術を知る。(第2回・第4～5回・第7～8回・第12回)
	2-2	数字でよみとくビジネス: 分析結果データをもとに、説明に適した表現方法や優れた可視化事例を知る。(第3回・第6回・第9～11回・第13～14回)
	2-3	数字でよみとくビジネス: 分析技術を活用し、ビジネスの実務上でデータを扱う際の知識(データ解析ツールやファイル形式等)を知る(第3回・第6回・第9～11回・第13～14回)

⑩プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

情報社会において、数理・データサイエンス・AIを活用することの意義や最新動向を知る。
また、データを活用するための技術を学び、ビジネス実務に応用するための知識を習得する。

⑪プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

http://www.iue.ac.jp/aboutus/features/datascience_education/

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

2020

年度

②履修者・修了者の実績

学部・学科名称	入学定員	収容定員	令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		平成29年度		平成28年度		履修者数合計	履修率
			履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
経済学部	610	2140	189	98	79	52									268	13%
経営学部	800	3500	361	287	222	168									583	17%
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
合計	1410	5640	550	385	301	220	0	0	0	0	0	0	0	0	851	15%

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

日本経済大学 教務委員会 運営規程

② 体制の目的

本学の理念・目的に現状を照らし、教育水準の向上および社会への貢献をはかり、本学の不断の改革・改善を図ることを目的とする。本委員会は教務部長、教務部長補佐、教務課長及び教務委員によって構成し、委員会の審議結果について、学長に報告しなければならない。

③ 具体的な構成員

教務委員会 委員長 山口 勝士
 経済学部経済学科 講師 案浦 知仁
 経済学部商学科 講師 嘉島 叶人
 経済学部経営法学科 教授 小嶋 恵
 経済学部健康スポーツ経営学科 教授 瀧 豊樹
 経営学部経営学科 教授 高井 曜子
 経営学部経営学科 教授 山原 智
 経営学部グローバルビジネス学科 教授 ブルーノ・カート・クリスチャンス
 経営学部グローバルビジネス学科 教授 竹田津 知子
 経営学部芸創プロデュース学科 講師 生井 直美

④ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和3年度実績	15%	令和4年度予定	25%	令和5年度予定	40%
令和6年度予定	55%	令和7年度予定	70%	収容定員(名)	5,640

具体的な計画

目標を実現するために、プログラム運営責任者から全教職員に対して、本学で実施する数理・データサイエンス・AI教育プログラムについての説明会を実施している。説明会の内容をもとに、履修ガイダンスや学生全員が所属するゼミ等を通して、全学生に対し、履修を促す説明を実施している。また、令和5年度からは必修科目とすることで、履修者数・履修率の向上を目指したい。

⑤ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

全学部・学科にて開講し、全ての学生が1年生から履修できる授業としている。また、オンラインを活用したハイブリッド型授業とすることで、オンラインでも履修することができ、履修人数をできるだけ多く確保できるよう工夫をしている。

⑥ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

入学後のオリエンテーション、履修登録前のガイダンス、本学WEBサイト、TeamsやメールSでの周知を行い、全学生に情報を行き届くよう工夫をしている。

⑦ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本教育プログラムの授業について、LMS(Microsoft Teams)にアーカイブを蓄積し、多くの学生がいつでも講義の閲覧が可能な環境を構築している。

⑧ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本教育プログラムについての履修をLMS(Microsoft Teams)にて管理し、学生は授業時間以外に不明点等をスレッドへの投稿やチャットを通じて確認することができる。また、よくある質問については、本教育プログラムの履修者コミュニティ(チーム)にFAQを掲載し、いつでも確認できる環境を確保している。

自己点検・評価について

① 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>経済学部・経営学部の両学部において、基幹システムに蓄積されている履修・取得状況の分析を行った。令和3年度は令和2年度と比較して、当教育プログラムの履修者が約1.8倍に増加することができた点で一定の効果をあげることができた。一方で、修了者の全学生に対する比率は15%に留まっており、さらなる向上が求められる。</p>
学修成果	<p>本教育プログラムでは各科目の定期試験において、学修内容の習得度を計測している。単位取得ができたものは、本教育プログラムが目的としている「情報社会において、数理・データサイエンス・AIを活用することの意義や最新動向を知る」「データを活用するための技術を学び、ビジネス実務に応用するための知識を習得する」点について、習得したものとみなすことができる。これまでの履修者が851人対し、プログラム修了者は605人であり、修了率は71.1%となっている。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>本教育プログラム受講者全員に対して授業アンケートを実施しており、学生の理解度を分析している。アンケート結果によると、本教育プログラムの学生の理解度は平均3.4(4点満点)で、全授業平均の3.2を上回っている。また、授業外学習では、本教育プログラムの履修者は2～3時間の予習・復習をしている者が最多で、この点でも全授業の最多である1～2時間の予習・復習時間を上回っている。この結果から、一般的な授業に比べて学生が意欲的に取り組んでおり、高い理解度を獲得していることがわかる。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>本教育プログラム受講者全員に対して授業アンケートを実施しており、NPS(Net Promoter Score)の手法で他者への推奨度を評価している。本プログラム履修者の推奨率は31.2%で全授業平均の40.1%を下回っている。また、批判率は44.6%と全授業平均の37.2%を上回っている。これは他の理数系科目の傾向と類似しており、学生のコメントから推察するに、内容の難しさが他者への推奨度を下げているものと思われる。よりわかりやすい説明方法や資料の工夫等を導入することで改善を行いたい。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>本教育プログラムを構成する2科目については、これまでは運営組織やゼミ担当教員からの推奨で履修者数の向上を目指してきた。一方で、現在の取り組みで大きな向上が見込めない点が課題となっており、令和5年度から1年次の登録必修とすることを検討している。登録必修化にあたっては、数理・データサイエンス・AI教育の内容について各専門分野からの観点も取り入れ見直し等を検討し、より学生の履修を推進していく。</p>
学外からの視点	

<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>まだ卒業生はいない。</p>
<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>本学が参画しているFDC(福岡地域戦略推進協議会)において、地域におけるデータ・AI活用の課題をヒアリングしたうえで本教育プログラムの設計に活用している。また、令和4年度からは本協議会にデジタル部会が設置され、本学から2名の教員が参加する。当部会において、本教育プログラムの紹介を行い、意見収集を実施したい。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>本学は経済学部・経営学部で構成されていることを踏まえた工夫を行っている。ビジネスの事例や実際の企業で使われているデータを比較的入手しやすいことから、実際の事例・データを例示した授業を行い、習得する知識がどのようにビジネスに応用できるかを学びやすくしている。</p>

内容・水準を維持・向上しつ
つ、より「分かりやすい」授業
とすること

本学は経済学部・経営学部で構成されていることを踏まえた工夫を行っている。数学について必ずしも得意ではなかった学生が一定数いることから、データサイエンスに関わる中学・高校領域の数学知識を復習しながら授業を実施している。また、單元ごとに実際の計算を行う問題演習の回を入れることで、つまずきを解消しながら授業を履修できるよう工夫を行っている。

②自己点検・評価体制における意見等を公表しているアドレス

http://www.iue.ac.jp/aboutus/features/datascience_education/



シラバス参照

講義名	数字でよみとくビジネス（日本人）		
(副題)			
開講責任部署	太宰府		
講義開講時期	秋学期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	0.00
代表曜日	木曜日	代表時限	2時限
校地	太宰府		
科目分類名			
科目分野名			
対象学科・年次	経済学科 ・ 1年～3年次 商学科 ・ 1年～3年次 経営法学科 ・ 3年次 健康スポーツ経営学科 ・ 1年～3年次		
必須/選択			

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 矢城 信吾	指定なし

学習目標(到達目標)	<p>高等学校で学んだ数学を復習・再入門するとともに、経済・経営学部に必要な統計学の知識を身につけていく。そのために次の目標を掲げる：</p> <p>①ビジネスにおける統計学の利用方法の理解（どのようなデータにどのような統計処理をしているかを知る） ②確率の計算を習得する。 ③レポート課題・問題演習を通じて、問題解決の論理性およびレポート作成能力を養う。 ④発展問題を通じて自然・社会で起こった現象について、統計データを利用した見方・考え方ができるように見識を深める。 ⑤勉強した内容および問題について、論理的に説明することができる。 ⑥表計算ソフト・統計ソフト・プログラミング言語を取り扱ってデータを処理できるようになる。</p>
授業概要(教育目的)	<p>私たちの生活は、いろいろな数字（数）で表されています。それは人口、お金、成績など、ありとあらゆるところで数字は使われています。この数字を使って私たちは、1つの判断を行っています。例えば</p> <p>「この試験で100点とった人は優秀か？」</p> <p>と言われたときに、あなたはどのように考えますか。また</p> <p>「時給1500円のアルバイトがある」</p> <p>と言われたときに、どう考えますか。</p> <p>もちろん人それぞれ、おかれている状況や背景によって、さまざまな見方・考え方があるかと思います。</p> <p>また近年「FACTFULNESS」という本がベストセラーとなりました。これは、社会情勢を数字（統計）でみて解説した本です。普段の生活で私達が誤解していること・社会問題に対する誤解を1つ1つ紐解いていく内容になっています。</p> <p>これらのことから、「如何にデータを読み解くか」・「統計データをうまく扱うか」ということが、現代社会・ビジネスシーンで生きていくために必要となってきます。そこで本科目では、文系分野（経済・経営学部）を専攻とする1年生向けに、確率（個数の数え上げ）・データと分析・確率分布・推定・検定を紹介し、具体的なデータを使って、物事の仮説や検証ができるようになってほしいと願います。</p>

授業計画表

回	内容
第1回	確率入門①ガイダンス（履修上の注意） ビジネスにおける確率の例・数え上げ（順列・組み合わせ）について
第2回	確率入門②確率の計算、条件付き確率、ベイズの定理について
第3回	確率入門③第1・2回の問題演習・発展演習[1]

第4回	データと分析①記述統計について グラフの名称 平均・分散・標準偏差について
第5回	データと分析②散布図の共分散 相関係数、回帰直線について
第6回	データと分析③第4・5回の問題演習・発展演習[2]
第7回	確率分布について①離散型確率分布：二項分布・ポアソン分布について
第8回	確率分布について②連続型確率分布：正規分布・標準正規分布について
第9回	確率分布について③第7・8回の問題演習・発展演習[3]
第10回	確率分布について④第7～9回までの確率分布の利用例：顧客数のモデル化など
第11回	確率分布について⑤第10回の問題演習・発展演習[4]
第12回	推定と検定①区間推定と信頼区間について
第13回	推定と検定②第12回の利用例：ネットショッピング利用世帯数の推定など
第14回	推定と検定③第12・13回の問題演習・発展演習[5]
第15回	第1～14回までの総合演習
第16回	(学期末課題レポート)

授業形式	<p>本科目はテキストを使って、講義・演習形式（一般論の概説・例題の解説）ですすすめていきます。手書きのノート・パワーポイントのスライド等を併用してすすめていきますので、各自ノートに必要な事項を書き留めてください。また問題演習・発展演習の回では、関連性のある問題をたくさん解いていきます。ここで経済・経営学部に必要な統計・関連性のある統計をトピックとして紹介します。これらの繰り返しで、レポート作成・課題解決に必要な知識・能力を養っていきます。みなさんは、どのようにデータが扱われているかに注目して受講してください。特に、第7回以降の内容は、大学1年生では難しい内容（計算：広義積分・重積分や特殊関数など）が含まれていますので、そこについての一般論は割愛し、具体的な現象・統計データを使って説明していきます。特にこの講義では、Excelを使って課題に取り組んでもらいます。Excelを使いながら、統計学を勉強していきましょう。</p>
評価方法	<p>評価方法については</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常のレポート課題提出・授業や演習への参加態度【50%】 <p>および</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期末課題レポート【50%】 <p>を考慮し、総合的に評価する。 ただし、学期末課題レポート未提出者については評価しない。</p>
テキスト	<p>【図書名】やさしく学べる統計学 【著者名】石村 園子 【出版社】共立出版 【価格（税込）】¥2,100</p>
テキストISBN番号	ISBN：978-4-320-01808-2
参考文献	<p>【中学校・高校の復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①著：高橋一雄 「もう一度 高校数学」 日本実業出版社 ISBN:978-4-534-04584-3 ¥2,800 + (税) ②高等学校 検定教科書 数学I, A, II, B, III ③高校・大学受験用の教材（チャート式・「整理と研究」など） <p>【大学リメディアル教育関連の教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ④著：岡本和夫他 「新版数学シリーズ 新版確率統計」 実教出版 ISBN:978-4-407-32171-5 ¥1,600 + (税) ⑤著：岡本和夫他 「新版数学シリーズ 新版確率統計演習」 実教出版 ISBN:978-4-407-32177-7 ¥857 + (税) <p>【統計データおよびその扱い方について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑥総務省統計局：https://www.stat.go.jp <p>【資格試験など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑦ビジネス統計スペシャリスト：https://stat.odyssey-com.co.jp ⑧統計検定：http://www.toukei-kentei.jp ⑨G検定：https://www.jdla.org/certificate/general/ <p>※表計算ソフト（Excel）・統計ソフト（R）・プログラミング言語（Python）や発展事項の参考文献は、講義時に紹介します。</p>
オフィスアワー(授業相談)	<p>わからないところを質問したい人や勉強の仕方を相談したいと思っている人は研究室にきてください。事前に連絡いただくと助かります。また苦手な内容・難しい内容は、早めに質問・相談してください。そして計画的に勉強をすすめていってください。わからないままにしておくと、大学4年間の学業に支障が出てきます。</p> <p>※本講義の補足・弱点補強などはオンデマンド動画として配信予定です。</p>

<p>学生へのメッセージ</p>	<p>みなさんがよく聞く「統計学」とは実学の学問です。これをしっかりと身につければ、ビジネスや社会情勢を理解していく上で、大きな力になっていくことでしょう。それと合わせて、表計算ソフト・プログラミング言語の扱いにも慣れておくと、大きなデータも処理することができるようになり、できることが増えていきます。そうすると、みなさんのビジネス戦略の幅が広がっていきます。ぜひ、数学・統計学を味方につけて、勉強を進めていってください。</p>
<p>準備学習の内容</p>	<p>講義・演習の内容は数学用のノートに書き留めておくこと。特に、その回に「何を勉強したか」がわかるようにしておくこと。</p> <p>【予習について】 シラバス・ノートなどでキーワード・教科書のページを参照し、高校で既習済みの内容かどうか確認しておく。</p> <p>【復習について】 教科書・ノートを参考にして、自分がわからなかった内容・できなかった問題をリストアップする。 大切なのは 「わかる（できた）問題」と「わからなかった（できなかった）問題」 を明確にわけることです。 できなかった問題やわからなかった内容は教科書・参考書などで調べ、教員に質問してみましょう。 質問する際は、「どこまで考えたか」「どのように考えてみたか」を教員に説明できるようにしてみるとよいでしょう。 またできない問題・課題を、独りで抱え込まないように注意してください。人に相談することも大切です。</p>

[ウインドウを閉じる](#)

別表1 授業科目表

授業科目表 I

1-1 経済学部 経済学科 基礎科目

区分	授業科目名	配当年次	単位
語学系科目	Aグループ	英語ⅠA	1 2
		英語ⅠB	1 2
		英語ⅡA	1 2
		英語ⅡB	1 2
		英語ⅢA	1 2
		英語ⅢB	1 2
		英語ⅣA	2 2
		英語ⅣB	2 2
	Bグループ	韓国語ⅠA	1 2
		韓国語ⅠB	1 2
		韓国語ⅡA	2 2
		韓国語ⅡB	2 2
		中国語ⅠA	1 2
		中国語ⅠB	1 2
		中国語ⅡA	2 2
		中国語ⅡB	2 2
		ドイツ語ⅠA	1 2
		ドイツ語ⅠB	1 2
		ドイツ語ⅡA	2 2
		ドイツ語ⅡB	2 2
		フランス語ⅠA	1 2
		フランス語ⅠB	1 2
		フランス語ⅡA	2 2
		フランス語ⅡB	2 2
		スペイン語ⅠA	1 2
		スペイン語ⅠB	1 2
		スペイン語ⅡA	2 2
		スペイン語ⅡB	2 2
	ロシア語ⅠA	1 2	
	ロシア語ⅠB	1 2	
	ロシア語ⅡA	2 2	
	ロシア語ⅡB	2 2	
	Cグループ	日本語(知識)ⅠA	1 1
		日本語(知識)ⅠB	1 1
		日本語(活動)ⅠA	1 1
		日本語(活動)ⅠB	1 1
日本語(知識)ⅡA		1 1	
日本語(知識)ⅡB		1 1	
日本語(活動)ⅡA		1 1	
日本語(活動)ⅡB		1 1	
日本語(知識)ⅢA		1 1	
日本語(知識)ⅢB		1 1	
日本語(活動)ⅢA		1 1	
日本語(活動)ⅢB		1 1	
日本語(知識)ⅣA		2 1	
日本語(知識)ⅣB		2 1	
日本語(活動)ⅣA		2 1	
日本語(活動)ⅣB		2 1	

区分	授業科目名	配当年次	単位
語学系科目	Dグループ	ビジネスイングリッシュⅠA	2 2
		ビジネスイングリッシュⅠB	2 2
		ビジネスイングリッシュⅡA	3 2
		ビジネスイングリッシュⅡB	3 2
		ビジネス日本語ⅠA	2 2
		ビジネス日本語ⅠB	2 2
		ビジネス日本語ⅡA	3 2
		ビジネス日本語ⅡB	3 2
		日本語(漢字・語彙)A	1 1
		日本語(漢字・語彙)B	1 1
		日本語(文法)A	1 1
		日本語(文法)B	1 1
		日本語(読解)A	1 1
		日本語(読解)B	1 1
教養科目	哲学Ⅰ	1 2	
	哲学Ⅱ	1 2	
	心のしくみと行動の科学	1 2	
	日本史Ⅰ	1 2	
	日本史Ⅱ	1 2	
	西洋史	1 2	
	東洋史	1 2	
	文学をよむ文化を知る	1 2	
	ビジネスライティング(文章表現)	1 2	
	倫理学Ⅰ	1 2	
	倫理学Ⅱ	1 2	
	地理学Ⅰ	1 2	
	地理学Ⅱ	1 2	
	地誌学Ⅰ	1 2	
	地誌学Ⅱ	1 2	
	地域再発見	1 2	
	日本事情(日本の文化と生活)	1 2	
	社会学概論	1 2	
	政治学Ⅰ	1 2	
	政治学Ⅱ	1 2	
	くらしと法	1 2	
	日本国憲法	1 2	
	スポーツ論	1 2	
	経済学入門	1 2	
	文系のための数学	1 2	
	数字でよみとくビジネス	1 2	
	動植物の体のしくみ	1 2	
	環境と社会生活	1 2	
	ソーシャルメディアとコミュニケーション	1 2	
	情報リテラシーⅠ(ビジネススキル)	1 2	
情報リテラシーⅡ(AI・データサイエンス)	1 2		
情報リテラシーⅢ(コンテンツ基礎)	2 2		
情報リテラシーⅣ(コンテンツ応用)	2 2		
健康科学	1 2		
スポーツ	1 2		

※1 語学系科目のAグループ、BグループおよびCグループは選択必修科目

※2 語学系科目のDグループおよび教養科目は選択科

2-1 経済学部 商学科 基礎科目

区分	授業科目名	配当年次	単位	
語学系科目	Aグループ	英語ⅠA	1	2
		英語ⅠB	1	2
		英語ⅡA	1	2
		英語ⅡB	1	2
		英語ⅢA	1	2
		英語ⅢB	1	2
		英語ⅣA	2	2
		英語ⅣB	2	2
	Bグループ	韓国語ⅠA	1	2
		韓国語ⅠB	1	2
		韓国語ⅡA	2	2
		韓国語ⅡB	2	2
		中国語ⅠA	1	2
		中国語ⅠB	1	2
		中国語ⅡA	2	2
		中国語ⅡB	2	2
		ドイツ語ⅠA	1	2
		ドイツ語ⅠB	1	2
		ドイツ語ⅡA	2	2
		ドイツ語ⅡB	2	2
		フランス語ⅠA	1	2
		フランス語ⅠB	1	2
		フランス語ⅡA	2	2
		フランス語ⅡB	2	2
		スペイン語ⅠA	1	2
		スペイン語ⅠB	1	2
		スペイン語ⅡA	2	2
		スペイン語ⅡB	2	2
	ロシア語ⅠA	1	2	
	ロシア語ⅠB	1	2	
	ロシア語ⅡA	2	2	
	ロシア語ⅡB	2	2	
	Cグループ	日本語(知識)ⅠA	1	1
日本語(知識)ⅠB		1	1	
日本語(活動)ⅠA		1	1	
日本語(活動)ⅠB		1	1	
日本語(知識)ⅡA		1	1	
日本語(知識)ⅡB		1	1	
日本語(活動)ⅡA		1	1	
日本語(活動)ⅡB		1	1	
日本語(知識)ⅢA		1	1	
日本語(知識)ⅢB		1	1	
日本語(活動)ⅢA		1	1	
日本語(活動)ⅢB		1	1	
日本語(知識)ⅣA		2	1	
日本語(知識)ⅣB		2	1	
日本語(活動)ⅣA		2	1	
日本語(活動)ⅣB	2	1		

区分	授業科目名	配当年次	単位	
語学系科目	Dグループ	ビジネスイングリッシュⅠA	2	2
		ビジネスイングリッシュⅠB	2	2
		ビジネスイングリッシュⅡA	3	2
		ビジネスイングリッシュⅡB	3	2
		ビジネス日本語ⅠA	2	2
		ビジネス日本語ⅠB	2	2
		ビジネス日本語ⅡA	3	2
		ビジネス日本語ⅡB	3	2
		日本語(漢字・語彙)A	1	1
		日本語(漢字・語彙)B	1	1
		日本語(文法)A	1	1
		日本語(文法)B	1	1
		日本語(読解)A	1	1
		日本語(読解)B	1	1
		教養科目	哲学Ⅰ	1
哲学Ⅱ	1		2	
心のしくみと行動の科学	1		2	
日本史Ⅰ	1		2	
日本史Ⅱ	1		2	
西洋史	1		2	
東洋史	1		2	
文学をよむ文化を知る	1		2	
ビジネスライティング(文章表現)	1		2	
倫理学Ⅰ	1		2	
倫理学Ⅱ	1		2	
地理学Ⅰ	1		2	
地理学Ⅱ	1		2	
地誌学Ⅰ	1		2	
地誌学Ⅱ	1		2	
地域再発見	1		2	
日本事情(日本の文化と生活)	1		2	
社会学概論	1		2	
政治学Ⅰ	1		2	
政治学Ⅱ	1		2	
くらしと法	1		2	
日本国憲法	1		2	
スポーツ論	1		2	
商学入門(生活と商業・流通)	1		2	
文系のための数学	1		2	
数字でよみとくビジネス	1		2	
動植物の体のしくみ	1		2	
環境と社会生活	1		2	
ソーシャルメディアとコミュニケーション	1		2	
情報リテラシーⅠ(ビジネススキル)	1		2	
情報リテラシーⅡ(AI・データサイエンス)	1	2		
情報リテラシーⅢ(コンテンツ基礎)	2	2		
情報リテラシーⅣ(コンテンツ応用)	2	2		
健康科学	1	2		
スポーツ	1	2		

※1 語学系科目のAグループ、BグループおよびCグループは選択必修科目

※2 語学系科目のDグループおよび教養科目は選択科目

3-1 経済学部 健康スポーツ経営学科 基礎科目

区分	授業科目名	配当年次	単位	
語学系科目	Aグループ	英語ⅠA	1	2
		英語ⅠB	1	2
		英語ⅡA	1	2
		英語ⅡB	1	2
		英語ⅢA	1	2
		英語ⅢB	1	2
		英語ⅣA	2	2
		英語ⅣB	2	2
	Bグループ	韓国語ⅠA	1	2
		韓国語ⅠB	1	2
		韓国語ⅡA	2	2
		韓国語ⅡB	2	2
		中国語ⅠA	1	2
		中国語ⅠB	1	2
		中国語ⅡA	2	2
		中国語ⅡB	2	2
		ドイツ語ⅠA	1	2
		ドイツ語ⅠB	1	2
		ドイツ語ⅡA	2	2
		ドイツ語ⅡB	2	2
		フランス語ⅠA	1	2
		フランス語ⅠB	1	2
		フランス語ⅡA	2	2
		フランス語ⅡB	2	2
		スペイン語ⅠA	1	2
		スペイン語ⅠB	1	2
		スペイン語ⅡA	2	2
		スペイン語ⅡB	2	2
	ロシア語ⅠA	1	2	
	ロシア語ⅠB	1	2	
	ロシア語ⅡA	2	2	
	ロシア語ⅡB	2	2	
	Cグループ	日本語(知識)ⅠA	1	1
		日本語(知識)ⅠB	1	1
		日本語(活動)ⅠA	1	1
		日本語(活動)ⅠB	1	1
日本語(知識)ⅡA		1	1	
日本語(知識)ⅡB		1	1	
日本語(活動)ⅡA		1	1	
日本語(活動)ⅡB		1	1	
日本語(知識)ⅢA		1	1	
日本語(知識)ⅢB		1	1	
日本語(活動)ⅢA		1	1	
日本語(活動)ⅢB		1	1	
日本語(知識)ⅣA	2	1		
日本語(知識)ⅣB	2	1		
日本語(活動)ⅣA	2	1		
日本語(活動)ⅣB	2	1		

区分	授業科目名	配当年次	単位	
語学系科目	Dグループ	ビジネスイングリッシュⅠA	2	2
		ビジネスイングリッシュⅠB	2	2
		ビジネスイングリッシュⅡA	3	2
		ビジネスイングリッシュⅡB	3	2
		ビジネス日本語ⅠA	2	2
		ビジネス日本語ⅠB	2	2
		ビジネス日本語ⅡA	3	2
		ビジネス日本語ⅡB	3	2
		日本語(漢字・語彙)A	1	1
		日本語(漢字・語彙)B	1	1
		日本語(文法)A	1	1
		日本語(文法)B	1	1
		日本語(読解)A	1	1
		日本語(読解)B	1	1
教養科目	哲学Ⅰ	1	2	
	哲学Ⅱ	1	2	
	心のしくみと行動の科学	1	2	
	日本史Ⅰ	1	2	
	日本史Ⅱ	1	2	
	西洋史	1	2	
	東洋史	1	2	
	文学をよむ文化を知る	1	2	
	ビジネスライティング(文章表現)	1	2	
	倫理学Ⅰ	1	2	
	倫理学Ⅱ	1	2	
	地理学Ⅰ	1	2	
	地理学Ⅱ	1	2	
	地誌学Ⅰ	1	2	
	地誌学Ⅱ	1	2	
	地域再発見	1	2	
	日本事情(日本の文化と生活)	1	2	
	社会学概論	1	2	
	政治学Ⅰ	1	2	
	政治学Ⅱ	1	2	
	くらしと法	1	2	
	日本国憲法	1	2	
	スポーツ論	1	2	
	文系のための数学	1	2	
	数字でよみとくビジネス	1	2	
	動植物の体のしくみ	1	2	
	環境と社会生活	1	2	
	ソーシャルメディアとコミュニケーション	1	2	
情報リテラシーⅠ(ビジネススキル)	1	2		
情報リテラシーⅡ(AI・データサイエンス)	1	2		
情報リテラシーⅢ(コンテンツ基礎)	2	2		
情報リテラシーⅣ(コンテンツ応用)	2	2		
健康科学	1	2		
スポーツ	1	2		

※1 語学系科目のAグループ、BグループおよびCグループは選択必修科目

※2 語学系科目のDグループおよび教養科目は選択科目

4-1 経営学部 経営学科 基礎科目

区分	授業科目名	配当年次	単位	
語学系科目	Aグループ	英語ⅠA	1	2
		英語ⅠB	1	2
		英語ⅡA	1	2
		英語ⅡB	1	2
		英語ⅢA	1	2
		英語ⅢB	1	2
		英語ⅣA	2	2
		英語ⅣB	2	2
	Bグループ	韓国語ⅠA	1	2
		韓国語ⅠB	1	2
		韓国語ⅡA	2	2
		韓国語ⅡB	2	2
		中国語ⅠA	1	2
		中国語ⅠB	1	2
		中国語ⅡA	2	2
		中国語ⅡB	2	2
		ドイツ語ⅠA	1	2
		ドイツ語ⅠB	1	2
		ドイツ語ⅡA	2	2
		ドイツ語ⅡB	2	2
		フランス語ⅠA	1	2
		フランス語ⅠB	1	2
		フランス語ⅡA	2	2
		フランス語ⅡB	2	2
		スペイン語ⅠA	1	2
		スペイン語ⅠB	1	2
		スペイン語ⅡA	2	2
		スペイン語ⅡB	2	2
	ロシア語ⅠA	1	2	
	ロシア語ⅠB	1	2	
	ロシア語ⅡA	2	2	
	ロシア語ⅡB	2	2	
	Cグループ	日本語(知識)ⅠA	1	1
		日本語(知識)ⅠB	1	1
		日本語(活動)ⅠA	1	1
		日本語(活動)ⅠB	1	1
日本語(知識)ⅡA		1	1	
日本語(知識)ⅡB		1	1	
日本語(活動)ⅡA		1	1	
日本語(活動)ⅡB		1	1	
日本語(知識)ⅢA		1	1	
日本語(知識)ⅢB		1	1	
日本語(活動)ⅢA		1	1	
日本語(活動)ⅢB		1	1	
日本語(知識)ⅣA		2	1	
日本語(知識)ⅣB		2	1	
日本語(活動)ⅣA		2	1	
日本語(活動)ⅣB		2	1	

※1 語学系科目のAグループ、BグループおよびCグループは選択必修科目

※2 語学系科目のDグループおよび教養科目は選択科目

※ 青字は、渋谷Cの「教職:社会科」の科目

区分	授業科目名	配当年次	単位	
語学系科目	Dグループ	ビジネスイングリッシュⅠA	2	2
		ビジネスイングリッシュⅠB	2	2
		ビジネスイングリッシュⅡA	3	2
		ビジネスイングリッシュⅡB	3	2
		ビジネス日本語ⅠA	2	2
		ビジネス日本語ⅠB	2	2
		ビジネス日本語ⅡA	3	2
		ビジネス日本語ⅡB	3	2
		日本語(漢字・語彙)A	1	1
		日本語(漢字・語彙)B	1	1
	教養科目	日本語(文法)A	1	1
		日本語(文法)B	1	1
		日本語(読解)A	1	1
		日本語(読解)B	1	1
		哲学Ⅰ	1	2
		哲学Ⅱ	1	2
		心のしくみと行動の科学	1	2
		日本史Ⅰ	1	2
日本史Ⅱ		1	2	
西洋史Ⅰ		1	2	
西洋史Ⅱ	1	2		
西洋史	1	2		
東洋史Ⅰ	1	2		
東洋史Ⅱ	1	2		
東洋史	1	2		
文学をよむ文化を知る	1	2		
ビジネスライティング(文章表現)	1	2		
倫理学Ⅰ	1	2		
倫理学Ⅱ	1	2		
地理学Ⅰ	1	2		
地理学Ⅱ	1	2		
地誌学Ⅰ	1	2		
地誌学Ⅱ	1	2		
地域再発見	1	2		
日本事情(日本の文化と生活)	1	2		
社会学概論	1	2		
政治学Ⅰ	1	2		
政治学Ⅱ	1	2		
くらしと法	1	2		
日本国憲法	1	2		
スポーツ論	1	2		
経営学入門	1	2		
文系のための数学	1	2		
数字でよみとくビジネス	1	2		
動植物の体のしくみ	1	2		
環境と社会生活	1	2		
ソーシャルメディアとコミュニケーション	1	2		
情報リテラシーⅠ(ビジネススキル)	1	2		
情報リテラシーⅡ(AI・データサイエンス)	1	2		
情報リテラシーⅢ(コンテンツ基礎)	2	2		
情報リテラシーⅣ(コンテンツ応用)	2	2		
健康科学	1	2		
スポーツ	1	2		

5-1 経営学部 グローバルビジネス学科 基礎科目

区分	授業科目名	配当年次	単位	
語学系科目	Aグループ	英語ⅠA	1	2
		英語ⅠB	1	2
		英語ⅡA	1	2
		英語ⅡB	1	2
		英語ⅢA	1	2
		英語ⅢB	1	2
		英語ⅣA	2	2
		英語ⅣB	2	2
	Bグループ	中国語ⅠA	1	2
		中国語ⅠB	1	2
		中国語ⅡA	2	2
		中国語ⅡB	2	2
		ドイツ語ⅠA	1	2
		ドイツ語ⅠB	1	2
		ドイツ語ⅡA	2	2
		ドイツ語ⅡB	2	2
		フランス語ⅠA	1	2
		フランス語ⅠB	1	2
		フランス語ⅡA	2	2
		フランス語ⅡB	2	2
		スペイン語ⅠA	1	2
		スペイン語ⅠB	1	2
		スペイン語ⅡA	2	2
		スペイン語ⅡB	2	2
		ロシア語ⅠA	1	2
		ロシア語ⅠB	1	2
	ロシア語ⅡA	2	2	
	ロシア語ⅡB	2	2	
	Dグループ	ビジネスイングリッシュⅠA	2	2
		ビジネスイングリッシュⅠB	2	2
		ビジネスイングリッシュⅡA	3	2
		ビジネスイングリッシュⅡB	3	2

区分	授業科目名	配当年次	単位
教養科目	哲学Ⅰ	1	2
	哲学Ⅱ	1	2
	心のしくみと行動の科学	1	2
	日本史Ⅰ	1	2
	日本史Ⅱ	1	2
	西洋史	1	2
	東洋史	1	2
	文学をよむ文化を知る	1	2
	倫理学Ⅰ	1	2
	倫理学Ⅱ	1	2
	地理学Ⅰ	1	2
	地理学Ⅱ	1	2
	地域再発見	1	2
	社会学概論	1	2
	政治学Ⅰ	1	2
	政治学Ⅱ	1	2
	くらしと法	1	2
	日本国憲法	1	2
	文系のための数学	1	2
	数字でよみとくビジネス	1	2
	動植物の体のしくみ	1	2
	環境と社会生活	1	2
	情報リテラシーⅠ(ビジネススキル)	1	2
	情報リテラシーⅡ(AI・データサイエンス)	1	2
	情報リテラシーⅢ(コンテンツ基礎)	2	2
	情報リテラシーⅣ(コンテンツ応用)	2	2
	健康科学	1	2
	スポーツ	1	2

※1 語学系科目のA・Bグループは選択必修科目

※2 語学系科目のDグループおよび教養科目は選択科目

6-1 経営学部 芸創プロデュース学科 基礎科目

区分	授業科目名	配当年次	単位	
語学系科目	Aグループ	英語ⅠA	1	2
		英語ⅠB	1	2
		英語ⅡA	1	2
		英語ⅡB	1	2
		英語ⅢA	1	2
		英語ⅢB	1	2
		英語ⅣA	2	2
		英語ⅣB	2	2
	Bグループ	韓国語ⅠA	1	2
		韓国語ⅠB	1	2
		韓国語ⅡA	2	2
		韓国語ⅡB	2	2
		中国語ⅠA	1	2
		中国語ⅠB	1	2
		中国語ⅡA	2	2
		中国語ⅡB	2	2
		ドイツ語ⅠA	1	2
		ドイツ語ⅠB	1	2
		ドイツ語ⅡA	2	2
		ドイツ語ⅡB	2	2
		フランス語ⅠA	1	2
		フランス語ⅠB	1	2
		フランス語ⅡA	2	2
		フランス語ⅡB	2	2
		スペイン語ⅠA	1	2
		スペイン語ⅠB	1	2
		スペイン語ⅡA	2	2
		スペイン語ⅡB	2	2
		ロシア語ⅠA	1	2
		ロシア語ⅠB	1	2
		ロシア語ⅡA	2	2
		ロシア語ⅡB	2	2
	Dグループ	ビジネスイングリッシュⅠA	2	2
ビジネスイングリッシュⅠB		2	2	
ビジネスイングリッシュⅡA		3	2	
ビジネスイングリッシュⅡB		3	2	

区分	授業科目名	配当年次	単位
教養科目	哲学Ⅰ	1	2
	哲学Ⅱ	1	2
	心のしくみと行動の科学	1	2
	日本史Ⅰ	1	2
	日本史Ⅱ	1	2
	西洋史	1	2
	東洋史	1	2
	文学をよむ文化を知る	1	2
	ビジネスライティング(文章表現)	1	2
	倫理学Ⅰ	1	2
	倫理学Ⅱ	1	2
	地理学Ⅰ	1	2
	地理学Ⅱ	1	2
	地誌学Ⅰ	1	2
	地誌学Ⅱ	1	2
	地域再発見	1	2
	社会学概論	1	2
	政治学Ⅰ	1	2
	政治学Ⅱ	1	2
	くらしと法	1	2
	日本国憲法	1	2
	スポーツ論	1	2
	文系のための数学	1	2
	数字でよみとくビジネス	1	2
	動植物の体のしくみ	1	2
	環境と社会生活	1	2
	ソーシャルメディアとコミュニケーション	1	2
	情報リテラシーⅠ(ビジネススキル)	1	2
	情報リテラシーⅡ(AI・データサイエンス)	1	2
	情報リテラシーⅢ(コンテンツ基礎)	2	2
	情報リテラシーⅣ(コンテンツ応用)	2	2
健康科学	1	2	
スポーツ	1	2	

※1 語学系科目のA・Bグループは選択必修科目

※2 語学系科目のDグループおよび教養科目は選択科目

日本経済大学

教務委員会運営規程

(設置)

第1条 日本経済大学学則第44条に基づき、教務委員会（以下「委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、日本経済大学学則第46条に基づく教務に関する全般事項の審議を目的とする。

(構成)

第3条 本委員会は、次の委員をもって構成する。

(1) 教務部長、教務部長補佐、教務課長及び教務委員

(2) 前項において教務委員とは、教務部長の推薦により学部長がこれを指名した者をいう。任期は1年とし、再任を妨げない。

(組織)

第4条 本委員会に委員長を置く。委員長は教務部長がこれにあたり、必要に応じて教務委員会を招集し、会議を主宰する。

(審議)

第5条 本委員会の審議に必要な資料等の作成には、教務部がこれにあたる。

(議決)

第6条 本委員会は全委員の三分の二以上の出席により成立し、出席者の三分の二以上の賛成をもって議決するものとする。

(報告)

第7条 委員長は委員会の審議結果について、学長に報告しなければならない。ただし、学長が教授会の意見を聴くことが必要と判断した場合には教授会に報告する。

2 委員長は、全学に関する審議事項については、教務委員会で調整し、学長に審議結果を報告しなければならない。

(改廃)

第8条 本運営規程の改廃は、教務部長の発議により本委員会の議を経てこれを行うものとする。

附 則

この規程は昭和 55 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は平成 3 年 5 月 1 日から施行する。

附 則

この規定は平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規定は平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規定は平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

日本経済大学

自己点検・評価規程

(趣旨)

第1条 この規程は、日本経済大学（以下「本学」という。）の使命及び理念・目的の達成度を検証するため、本学における自己点検・評価に関する必要な事項を定める。

(目的)

第2条 自己点検・評価は、本学の理念・目的に現状を照らし、教育・研究水準の向上及び社会への貢献をはかり、もって、本学の社会的使命の達成に寄与するとともに、これらの活動を支えるよりよい環境や諸条件を整備し、将来に亘り、本学の不断の改革・改善を図ることを目的とする。

(範囲)

第3条 自己点検・評価の対象となる範囲は、教育・研究・社会への貢献及びそれらの管理運営並びに経営の各分野とする。

(組織)

第4条 本学は、自己点検・評価を実施するため、次の委員会を置く。その組織は、別紙「自己点検・評価組織」の通りとする。

(1) 全学自己点検・評価実施委員会（「全学委員会」）

(2) 個別自己点検・評価委員会（「個別委員会」）

第5条 前条に定める各委員会の任務は次のとおりとする。

(1) 全学委員会は、学長が任命する委員で構成し、全学的自己点検・評価の実施、個別自己点検・評価結果の検証、自己点検・評価報告書の編集を行う。

(2) 個別委員会は、学長が任命する委員で構成し、各個別自己点検・評価の実施、自己点検・評価の全学委員会への報告を行う。

2 前項に定める各委員会は、本学の現状について、別紙「自己点検・評価チェックリスト」により点検及び評価を行うものとする。

(実施)

第6条 自己点検・評価については、教育・研究・社会への貢献の質的水準の維持・向上を図るため、常に自主的・自律的に行うものとする。

2 第3条の対象となる各分野における部分的実施及び個別的实施は、第4条に定める各委員会がそれぞれ行うものとする。

(外部検証)

第7条 自己点検・評価については、外部評価（本学が選任した本学以外の者

による評価)、第三者評価(本学から独立した客観的立場の者による評価で、認証評価機関による評価を含む)又はその両評価により多面的に外部検証を行うものとする。

(結果の公表)

第8条 自己点検・評価の公表の範囲・方法等については、全学委員会で定める。

(結果の活用)

第9条 教職員及び学内諸機関は、自己点検・評価の結果を真摯に受けとめ、第3条に定める各分野において、それぞれの活動水準の向上と活性化に努めるものとする。

2 理事長及び学長は、自己点検・評価の結果に基づき、改善策の検討が適切と認められるものについては、速やかに学内審議機関に諮り、改善策の具体化に努めるものとする。

(条件整備)

第10条 理事長及び学長は、本学における自己点検・評価への取り組みを可能にする人的、物的、資金的な条件の整備に努めるものとする。

(改正)

第11条 この規程の改正は、学長の承認を経て行う。

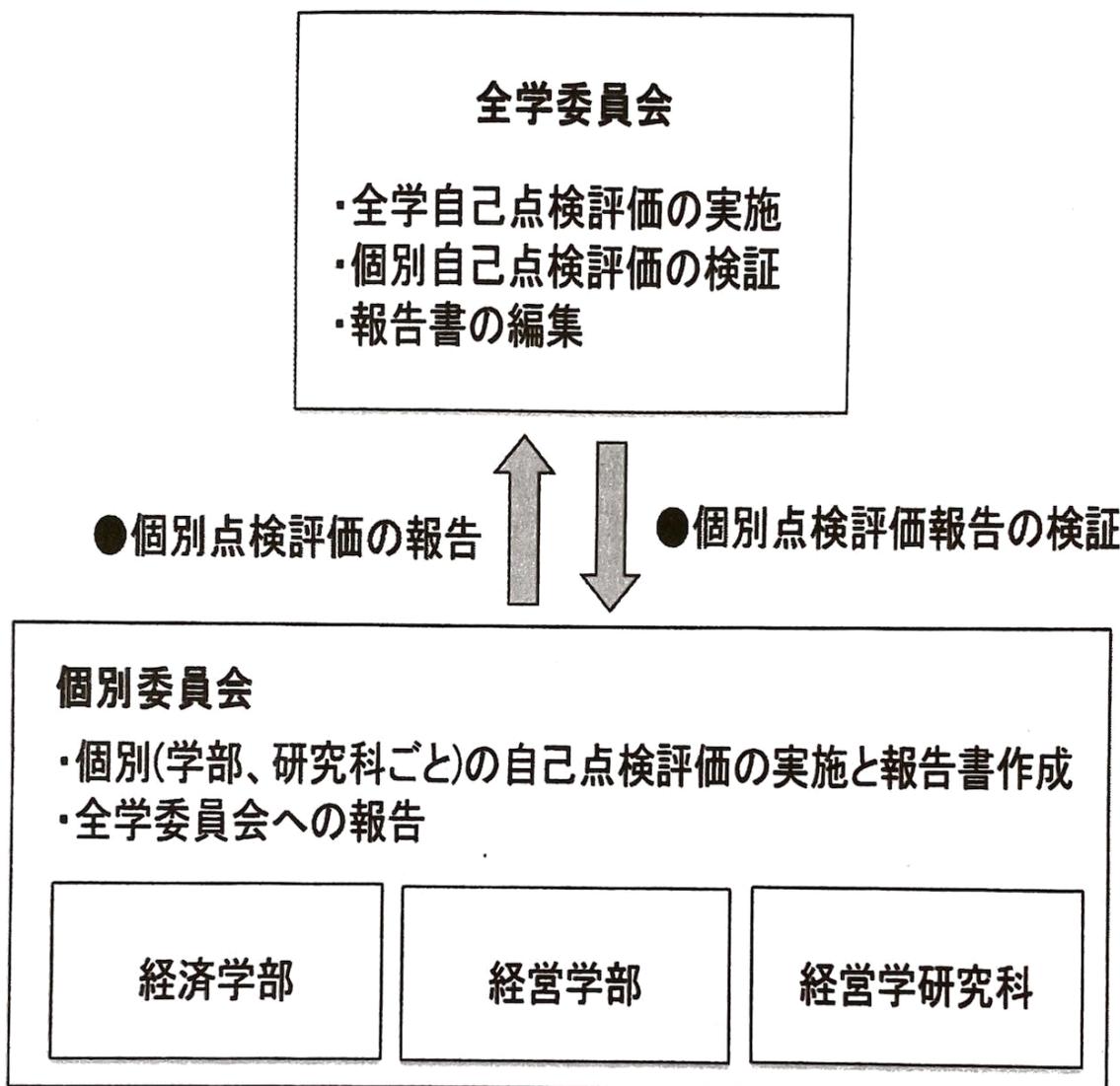
附 則

- 1 この規程は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 第一経済大学自己評価に関する規程(平成3年7月1日制定・施行)は、日本経済大学自己点検・評価規程の施行の日から廃止する。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

自己点検・評価組織



数理・データサイエンス・AI教育プログラム概要

数理・データサイエンス・AIのリテラシーと応用力を学び、
ビジネスでデータを活用し価値を創出する方法を体系的に修得するカリキュラム。

全学生が対象

リテラシープログラム

数字でよみとくビジネス

数理・データサイエンス・AIを活用することの意義や最新動向を知る。また、データを活用するための技術を学び、ビジネス実務に応用するための知識を習得する。

経営学部経営学科の学生対象
(特にデジタル・ビジネスデザインコース)

応用基礎プログラム

プログラミング
データサイエンティスト演習
ビッグデータ分析
ディープラーニング

データサイエンスの基本的な概念と手法、AIの基本的な概念と手法、それぞれの応用例を学ぶことで、データやAI技術を活用し課題解決につなげるとは何かを理解する。

数理・データサイエンス・AI教育プログラム 推進体制

教務員委員会・自己点検評価委員会・業務推進部が相互に連携してPDCAを回す

